

高 校 選 び (5)

9月に入り具体的な高校名を中学校の担任に伝える時期がきました。いままで公私合同説明会、学校見学会、学校説明会などをおして幾つかの学校の説明を聞いたり、見学したりしてきたと思います。また、受験用の印刷物や学校のホームページなどで学校を調べ、対象校を絞ったのではないですか。学校説明会に保護者と一緒に参加したら帰宅後、学校の雰囲気や説明会の感想などについて保護者と話し合ってみてください。

また、保護者は自分の意見を強く言いすぎてはいけません。高校に進学するのは生徒本人ですから、まずは、本人の学校に対する意見や感想を、よく聞いてあげてください。それから保護者なりの意見や感想を言いましょう。

何校かの学校説明会、学校見学会に参加した学校を比較してみる必要があります。なかなか比較することが難しければ、最初に参加した学校と比較していきましょう。

自分の成績や模擬試験の結果、部活動の状況、通学時間、進学・就職実績、学ぶ学科・学習システム、学校のカリキュラム、校風、施設・設備、費用、教職員などから志望校を考えたと思います。また、試験科目も学校選びの要因の一つにあげられます。

私立高校の入試には、推薦入試と一般入試があります。推薦入試の中には、合格したら必ず入学しなくてはならない単願と、他校と併願可能な併願があります。単願は入試相談や個別相談等で私立高校の設定している基準をクリアして出願します。多くの場合は合格になりますが難関私立高校では募集人員を超え不合格になる者が少なからずです。併願は入試相談や個別相談等で基準をクリアしている場合に出願が認められますが、単願ほど合格可能性は高くはありません。併願の場合は、他の私立高校との併願もありますが、多くは国立・公立との併願となります。

私立高校の一般入試では3教科が主流ですが、開成高校は5教科、早稲田大学高等学院は3教科に小論文(90分)という学校もあります。私立高校の一般入試のウエイトは各学校によって異なりますが、公立高校よりウエイトは高いので、入試の結果が合否につながります。非常に難関な問題を出題する学校もあれば、学習指導要領の範囲内で基礎学力を問う問題を出題する学校もあります。各学校の過去問題を入手して必ず傾向を知って対応しましょう。

公立高校の入試は、平成25年度から前期選抜、後期選抜を一本化して、共

通選抜を実施しています。調査書、学力検査、面接および特色検査を実施します。学力検査は英・数・国・理・社の5教科で実施、面接は個人面接を行います。特色検査は一部の学校で、自己表現または実技検査を実施します。

本校の一般募集は特色検査を実施しませんので、第1次選考方法(定員の90%)は調査書(3)、学力検査(5)、面接(2)という重み付けをしています。第2次選考(定員の10%)は学力検査(7)、面接(3)という重み付けです。

本校の在県外国人等特別募集では、学力検査は英・国・数の3教科で実施、面接は個人面接を行います。選考方法は、学力検査は3教科を300点満点、面接は100点満点とし、学力検査+面接=400点満点で高いものから総合的に選考します。面接の評価の観点は、一般募集は①入学希望の理由、②中学校での教科等に対する学習意欲、③中学3年間での教科等以外の活動に対する意欲、その他に学校ごとの観点として、○高校での教科等に対する意欲、○高校での教科等以外の活動に対する意欲、○学校・学科等の特徴・特性、○将来の展望となっています。特別募集は○入学希望の理由、○高校での教科等に対する学習意欲、○高校での教科等以外の活動に対する意欲、○将来の展望となっています。

一般入試の学力検査は、県内公立高校の共通選抜の場合、全校共通問題です。学力検査では、主に「基礎的な知識および技能」と、「思考力、判断力、表現力等」を測ります。どの教科も中学校で使用した教科書をよく理解し、得点を取れるように勉強しましょう。過去問題を入手して傾向や出題形式等を調べ、対応できるようにします。問題ができるか、時間内に答えることができるかだけでなく、解答できなかった問題や、間違えた問題など出来なかった問題をそのままにせず、必ず解けるように勉強しましょう。なぜ解けないのか、なぜ間違えたのかを考え、その対策を図る必要があります。共通選抜の問題を解くには、学習指導要領や教科書の範囲を確実に押さえることが大切です。教科書の範囲とは、教科書の本文だけでなく、年表や周期表、写真や絵図なども含まれます。また、極端な例ですが、教科書に記載されている人の絵の口から出ている吹き出しも含まれることになります。

解けない問題は、解けている友人に尋ねる、先生に尋ねる、塾の先生に尋ねるなど、解けない問題の解法を聞き、それを理解することが大切です。仮に理解できたと思っても、その日の夜、寝る前にもう一度理解できているか確認することをしましょう。そこで理解できていなければ、また尋ねればいいのです。理解できていたら3日後、1週間後、1ヵ月後に、再び理解できているか確認するとよいでしょう。急がば回れです。